

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		図書館運営事業		グループ・担当名	図書館グループ業務担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	04 図書館、読書活動の充実			目	05 図書館費
	施策(小)	01 図書館の増改築の検討			大業	01 図書館運営事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	図書、記録その他必要な資料を収集・整理・保存し、町民等の調査・研究・教養の向上及び娯楽の場所として提供し、より多くの方に活用される図書館の運営を行う。					
事業目的	臨時・嘱託職員5名、図書館運営協議会委員7名の費用など図書館運営を行う基本的な事務経費を計上する。					
事業の対象	地域の皆さんに利活用される町立図書館の運営を行う。					
実施結果	【実施結果】 平成29年度は開館日数288日、1日平均来館者数207名、1日平均貸出冊数515冊となっている。					
現状と課題	【現状と課題】 団体文庫等の増、多様化する利用者ニーズに対応できる体制の強化が必要。					
事業進捗度	2 予定通り取り組んでいるが終了していない	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	13,374	15,081	13,082	15,882	19,231	18,611
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	13,374	15,081	13,082	15,882	19,231	18,611
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	13,374	15,081	13,082	15,882	19,231	18,611

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	1日平均来館者数	目標	人			230	230	205
		実績	人	220	206	207		
		達成率	%		89.57	90		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点		評価	理由				
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	法的には外部委託も可能だが、公共性に鑑み現段階では考えていない。				
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	人口減少に伴い、来館者数及び貸出冊数ともに減少傾向にあるが、町民ニーズやリクエスト等の要望を的確に把握した選書を行う				
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	経費は、適正な運営に要する事務費及び人件費であり、削減する余地はない。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状維持のまま実施することが適当			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	常に町民ニーズや要望などに対応し、町民が利用しやすい図書館サービスの向上に努める。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		図書館施設維持管理事業		グループ・担当名	図書館グループ業務担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたためたい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	04 図書館、読書活動の充実			目	05 図書館費
	施策(小)	01 図書館の増改築の検討			大事業	02 図書館施設維持管理事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	図書館が多くの町民に快適、安全に利活用されるよう、適切な施設等の維持管理を行う。					
事業目的	施設維持にかかる光熱水費、修繕費及び清掃、警備の委託業務等の経費を計上。					
事業の対象	開館を継続するため施設の維持管理を行う。					
実施結果	【実施結果】 平成29年度開館日数288日					
現状と課題	【現状と課題】 現図書館は昭和54年3月オープンから39年が経過しており、経年劣化に伴う設備・施設の修繕が必要となっている。また、施設が狭隘で資料等の保管にも支障をきたしている。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	11,077	9,629	9,833	10,040	9,541	9,600
国支出金	0	-	0	-	0	-
道支出金	0	-	0	-	0	-
地方債	0	-	0	-	0	-
その他	50	-	49	-	49	-
一般財源	11,027	9,629	9,784	10,040	9,492	9,600
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	11,077	9,629	9,833	10,040	9,541	9,600

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	開館日数	目標	日		288	288	288	288
		実績	日	289	292	288		
		達成率	%		101.39	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	清掃、警備業務等委託可能なものは委託している。図書館業務の外部委託は法的には可能だが公共性に鑑み、現段階では考えていない。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	施設を維持改善することで、利用者が快適に図書館を活用することが可能となるため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	必要最小限の維持管理に努めている。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状維持のまま実施することが適当			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	図書館の老朽化及び狭隘化に伴い、新図書館建設の検討が必要である。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		図書資料購入整備事業		グループ・担当名	図書館グループ業務担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたためたい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	04 図書館、読書活動の充実			目	05 図書館費
	施策(小)	02 図書館における郷土図書資料の充実			大事業	03 図書館活動促進事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	町民からのリクエストや話題の本など各分野にわたる図書等を選書・収集し、装備を施した後で書架に整理し利用者に提供する。					
事業目的	図書の選書、購入、装備をし利用者に提供する。					
事業の対象	町民等に対して図書、資料等を整備し生涯学習の一つとして提供する。					
実施結果	【実施結果】 図書の選書、購入、装備をし利用者に提供する。					
現状と課題	【現状と課題】 本の蔵書数に比して書架が不足しているため、閉架書庫や図書館外に保管する図書、資料が多くなり利用者に不便をかけている。					
事業進捗度	2 予定通り取り組んでいるが終了していない	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	8,699	9,208	7,956	9,546	7,920	7,920
国支出金	0	-	0	-	0	-
道支出金	0	-	0	-	0	-
地方債	0	-	0	-	0	-
その他	64	-	3	-	3	-
一般財源	8,635	9,208	7,953	9,546	7,917	7,920
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	8,699	9,208	7,956	9,546	7,920	7,920

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	1日平均貸出冊数	目標	冊		580	580	510	510
		実績	冊	525	516	515		
		達成率	%		88.97	88.79		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	法的には外部委託も可能だが、公共性に鑑み現段階では考えていない。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	人口減少に伴い、来館者数及び貸出冊数ともに減少傾向にあるが、町民ニーズやリクエスト等の要望を的確に把握した選書を行う
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	年次計画を立て、蔵書充実に応じた適正な経費を執行している。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当		評価結果
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状維持のまま実施することが適当		
		予算反映額 (概算)	0千円	現状維持
今後の改善点	町民ニーズやリクエスト等に対応した選書により、蔵書拡充を図るとともに予算枠の拡充を図っていく。			

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		図書館活動推進事業		グループ・担当名	図書館グループ業務担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたためたい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	04 図書館、読書活動の充実			目	05 図書館費
	施策(小)	03 図書館ボランティアの育成及び活動支援			大業	03 図書館活動促進事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	講師を招いて講座、教養研究等を開催し図書館活動の促進を図る。また、子供達に対して職員によるお話し会や工作などによる事業を行う。 更に、2階ギャラリーを活用し絵画展等の展示事業のため会場を町民に開放すると共に自らも展示等の取組を行う。					
事業目的	図書に親しむ人の拡大と図書館利用者の拡大					
事業の対象	町民及び図書館利用者					
実施結果	【実施結果】 図書を活用した行事などの取り組み					
現状と課題	【現状と課題】 来館者数は減となっているが、講座参加者は一定数おり安定している。より一層の魅力的な行事やPRの検討が必要。					
事業進捗度	2 予定通り取り組んでいるが終了していない	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	1,514	823	1,169	845	652	750
国支出金	0	-	-	-	0	-
道支出金	0	-	-	-	0	-
地方債	0	-	-	-	0	-
その他	2	-	-	-	0	-
一般財源	1,512	823	1,169	845	652	750
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	1,514	823	1,169	845	652	750

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	1日平均来館者数	目標	人			230	230	205
		実績	人	220	206	207		
		達成率	%		89.57	90		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	法的には外部委託も可能だが、公共性に鑑み現段階では考えていない。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	来館者数は減少しているが、開催講座参加者は一定数あり安定しており有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	職員の創意工夫により決められた予算の中で魅力ある行事を実施している。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状維持のまま実施することが適当。			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	魅力ある図書館づくり及び事業の見直しを含め、PRの方法を検討することにより来館者の増加を図る。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		読書習慣推進事業		グループ・担当名	図書館グループ業務担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	04 図書館、読書活動の充実			目	05 図書館費
	施策(小)	04 子どもの読書活動の推進、読書習慣の形成			大事業	03 図書館活動促進事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	小学校、保育園での読み聞かせボランティア団体を支援する。ボランティア人材育成のための養成講座等を開催。また、「子ども未来絵本036事業」として幼少期からの読書習慣の形成と豊かな情操を育むことを目的として、ブックスタート事業（0歳対象）、ブックセカンド事業（3歳対象）、ブックサード事業（6歳対象）を継続して実施する。					
事業目的	図書館ボランティアの育成及び活動支援 子どもの読書活動の促進及び読書習慣の形成					
事業の対象	図書館ボランティア、町内の0・3・6歳児					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 ボランティアサークルの活動支援及び養成講座等の開催。 絵本・アドバイス集の配布（子ども未来絵本036事業）、読み聞かせの説明等を行い、読み聞かせ事業を実施。 【現状と課題】 ボランティアの担い手育成					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	503	652	869	675	1,016	830
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	700	-
一般財源	503	652	869	675	316	830
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	503	652	869	675	1,016	830

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
指標1	配布人数	目標	人			480	480	420	410
		実績	人	283	416	430			
		達成率	%		86.67	89.58			
指標2		目標							
		実績							
		達成率	%						
指標3		目標							
		実績							
		達成率	%						
項目	評価の視点	評価	理由						
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	法的には外部委託も可能だが、公共性に鑑み現段階では考えていない。						
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	全体の貸出冊数は増えていないが、絵本の貸出冊数は増加しており有効である。						
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	支援ボランティアや関係団体の協力を得て実施している。						
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当。					評価結果		
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状維持のまま実施することが適当。			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持	
今後の改善点	職員だけでは対応が困難なため、ボランティアの支援が必要不可欠だが、ボランティアの後継者不足が大きな課題となっており、今後人材確保を図っていく。								

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		図書館電算システム（更新）事業		グループ・担当名	図書館グループ業務担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	04 図書館、読書活動の充実			目	05 図書館費
	施策(小)	01 図書館の増改築の検討			大事業	01 図書館運営事業
事業期間	6年度		平成26年度～平成31年度			
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	投資的経費
事業概要	5年以上経過した図書館電算システムを更新し、利用者の利便性の向上と適切な図書管理を行う。					
事業目的	電算システムの更新。					
事業の対象	図書の選書購入、登録、貸出、返却、予約、督促等図書館としての業務を的確・迅速に行う。					
実施結果	【実施結果】 図書館業務を的確・迅速に行う事ができるため、業務処理が効率的になる。					
現状と課題	【現状と課題】 事務効率の上からも必要な事業である。保守のみとなるためパッケージシステム部分の改善の要望もしていく。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	2,547	2,547	2,548	2,547	0	0
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	2,547	2,547	2,548	2,547	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	2,547	2,547	2,548	2,547	0	0

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	年間貸出冊数	目標	冊		155,000	155,000	148,000	148,000
		実績	冊	151,820	150,782	148,350		
		達成率	%		97.28	95.71		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	法的には外部委託も可能だが、公共性に鑑み現段階では考えていない。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	町民の利便性向上と、図書館業務の事務効率向上のため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	経費は適正な運営に要する事務費であり削減の余地はないと考える。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 図書館運営事業へ組換え (H30 2,548千円 H31 1,911千円)					現状維持	
今後の改善点	町民の利便性向上のため、随時電算システムの見直しを行い、パッケージシステムの部分もあるため、改善できる部分は改善に向け要望していく。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		図書館郷土資料デジタル化事業		グループ・担当名	図書館グループ業務担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	04 図書館、読書活動の充実			目	05 図書館費
	施策(小)	02 図書館における郷土図書資料の充実			大事業	03 図書館活動促進事業
事業期間	2年度		平成28年度～平成29年度			
要求区分	休廃止		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	投資的経費
事業概要	美幌町の郷土資料として戦前の新聞等を蔵書として保管しているが、保存期間が50年以上経過しており、用紙の酸化が大変進み、資料に傷みが生じているため、利用することが困難な状態となっている。こうした貴重資料が現存している内にデジタル化を推進することにより、貴重資料の保管と利用を促進する。					
事業目的	美幌町の戦前の貴重資料をデジタル化することにより、貴重資料の保管と利用の促進を図る。					
事業の対象	町民					
実施結果	【実施結果】 貴重資料のデジタル化					
現状と課題	【現状と課題】 デジタル化は終了したため、町民が活用できるように提供する。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	0	1,701	1,701	1,701	0	0
国支出金	-	-	-	-	0	-
道支出金	-	-	-	-	0	-
地方債	-	-	-	-	0	-
その他	-	-	-	-	0	-
一般財源	0	1,701	1,701	1,701	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	0	1,701	1,701	1,701	0	0

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	1日平均来館者数	目標	人			230	230	
		実績	人	220	206	207		
		達成率	%		89.57	90		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	法的には外部委託も可能だが、公共性に鑑み現段階では考えていない。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	デジタル化により貴重な資料の永久保存が可能となり、町民への利便性が図られるため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	貴重な資料を保存・利用するのに必要な経費である。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 休止・廃止 事業が終了したため。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 皆減 事業が終了したため。			予算反映額 (概算)	0千円		休止・廃止
今後の改善点								